

海洋島

第8巻 第4号 (通巻52号)

東京都小笠原水産センター

2006年9月20日発行

〒100-2101 東京都小笠原村父島字清瀬

04998-2-2545 Fax. 04998-2-2546

メカジキの標識放流 -

新型標識を取り付ける!

現在水産センターでは、小笠原海域で最も重要な漁獲対象魚となっているメカジキの回遊や生態に関する調査を精力的に進めています(本紙50号)。今回は、新型標識、ポップアップタグ(PAT: Wildlife Computers社製)を魚に取り付け放流をおこないましたので、ご紹介いたします。

初回は、7月2日「第八興勇丸」(磯部船長)に、ご協力頂き、推定体重50kgのメカジキにPATを付け、父島の南東沖、北緯26度57.51分、東経142度17.95分において放流をおこないました。2尾目は、9月13日に調査船「興洋」により釣獲した推定体重100kgに付け母島海山の北緯26度14.34分、東経143度0.97分において放流をおこないました。



図1 PATを装着する様子



PAT(写真:左)は、放流魚を再捕獲しなくともデータを回収できる最新型の標識です。鉗で背中に打ち込み固定します。3つのセンサーを搭載し、水深(0~1000m)、水温(-40~60)、光レベル(水深300mでも日出と日没時刻を正確に判別可能)を記録します。内蔵されたタイマーにより設定時間が経過すると、自動的に魚体から切離され、海面に浮上します。浮上したPATからは、アルゴスシステム¹⁾を通じ、人工衛星経由で装着されていた期間のメカジキの遊泳データが送信されてきます。このデータをインターネット経由

で入手し、メカジキの行動を解析します。標識魚を再捕獲しなくともデータを入手できるのが従来型の標識と異なる大きな特徴です。予定では7月2日に装着したPATは100日後の10月10日、9月13日に装着したPATは90日後の12月12日に魚体から切り離され、海面まで浮上し、蓄積したデータを送ってくるよう設定されています。

メカジキの生態解明、特に遊泳行動の解明に結びつくデータの取得が出来ることを楽しみにしています。皆様もご期待下さい。

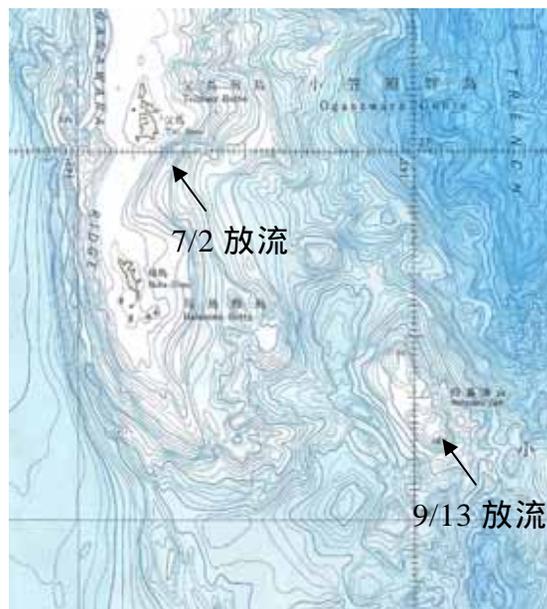


図2 標識魚の放流場所

【用語解説】

1): アルゴスシステムとは、環境調査・保護を目的とした人工衛星によるデータ収集・測位システムです。米国とフランスにより開発され、1979年以来、海洋調査や動物追跡など、さまざまな研究調査や環境保護プログラムで用いられています。

